

アンドレ・モーロア著「青年と人生を語ろう」二見書店、1968 年 2 月 28 日刊を読む

価値ある行動に向けての「4つの規則」

ー「道徳的価値」とは、それなしには社会も幸福も生きのびられないからという理由だけの価値ー

＜第1の規則＞

1. 「おのれより別のもののために生きなければならない」

(1) 自分自身のことについて思いをこらす人はいつも、不幸になる理由を無数に見い出す。

①かれは、自分のしたかったこと、しなければならなかったことを一度も、まったくしなかった。

②かれは、手に入れる価値があると思ったものを一度も、まったく手に入れなかった。

③かれは、そうありたいと夢みたであろうようには、めったに愛されたことがない。

(2) もしかれがおのれの過去を咀嚼^{そしやく}しなおしてみるなら、

①かれは、悔恨か良心の呵責を感じることでしょう。それもいまとっては無駄なことですが。

②わたしたちの過去は忘却に捧げられています。それが過去の価値のすべてなのです。

③廃棄する手だての皆無な過去を抹殺するかわりに、先ざきあなたの誇りになるような現在の建設に手を染めてください。

(3) 自分自身との矛盾こそ諸悪の最たるものです。

①他人のため

②祖国のため

③妻のため

④仕事のため

⑤飢えたひとたちのため

⑥迫害されたひとたちのため

これらのために生きるひとはみんな、不思議なほどみずからの苦悩や、くだらない気苦労を忘れていきます。

＜真の外界こそ真の内界である＞

＜第2の規則＞

2. 「行動しなければならない」

(1) 世界の不条理について嘆くかわりに、わたしたちが投げ込まれている片隅を変改するようころみてください。

①わたしたちは、全世界を変えようとしても不可能なことです。

②それにだれも世界を変えようなどとのぞんでいるでしょうか。

(2)わたしたちの目標はもっと身ぢかで、もっと簡単なものなのです。

①つまり、わたしたちが職業に就くにあたり、それを十分選択し、それを熟知し、その達人となることです。

②だれもが自分の行動範囲をもっています。

(ア)わたしは本を書き

(イ)指物師はわたしの書架の棚板をあつめてくれ

(ウ)お巡りさんは交通の整理をし

(エ)技師は建築の図面をひき

(オ)市町村長は市町村の管理を行います

③もし、みんなのお手のものの仕事がオーバーワークにならないかぎり、仕事で身体を動かしているときがいちばん幸せなのです。

(ア)このことが嘘でない証拠に、かれらは閑なときにも、さまざまな競技やスポーツといった一見無駄にみえる行動をみずからに課しています。

(イ)相手が泥んこのなかでタックルしてくるようなラグビーをやるのが楽しいのです。

④有用な行動に関しては、わたしたちはその効用を楽しみます。

(ア)活動的な町長は清潔な街をつくり

(イ)活動的な司祭は活気にあふれた聖堂区をつくり

(ウ)これらの成功をみて、かれらは満足するのです

<第3の規則>

3.「意志の力を信じなければならない」

(1)「未来は完全に決定されている」というのは事実ではありません。

①偉大な人物は歴史の流れを修正することができます。

②そうしたいとのぞむ勇気のあるひとならだれでも自分自身の未来を修正することができます。

(2)むろん、わたくしたちのだれもが万能というわけではありません。

①各自の自由もおのずから限界というものがあります。

②自由は可能性と意志との限界上に生きているのです。

(3)①戦争を阻止しようとしてもわたしひとりの力ではどうにもなりません。

②しかし、ひとつの行動と言語と文書によって実行することはわたしにもできます。

③その行動が数百万のひとの同意をうることによって戦争の可能性を少なくすることもできるでしょう。

<第4の規則>

4.「誠実」

(1)①「約束」に

②「契約」に

③「他人」に

④「自分自身」に

} 誠実であること

(2)決して欺くことのない人間でなければならない。

①誠実はなまやさしい美德ではありません。

②無数の誘惑が、とりかわされた約束をつらぬいて飛び込んできます。

(3)①選んだ職業を立派にやりとげる。

②政党の体質改善をやりとげる。

③誠実は、誠実を正当化するものを創り出す。

(4)わたしはわが同胞に、きみたちは侮辱されたのだとか、きみたちは祖国とともに自殺することを名誉が要求している、などという見当ちがいなことを、どんな場合にも言うことを差し控えることはできます。

(5)戦いに勝つことはわたし次第というわけにはまいりませんが、わたしなりの立場で、＜情況によって＞勇敢な兵士になるかはわたし次第であります。

(6)「意志の限界はどこまでやり抜くかによる」ように、いつも限界のことなど気かけないで、自分自身を最善に統制することが必要です。

①怠惰、卑劣は遺棄すべきものです。

②仕事、勇氣は積極的行動の成果です。

③意志はおそらく美德のなかの女王とも申せましょう。

5. 最後に

(1)①ユーモアの感覚をおもちなさい—あなた自身を、そしてわたしを^{あざわら}嘲笑うことのできるよう
にしてください—

②あなたの弱点をすなおにおみとめなさい—あなたがその弱点を抑制できないかぎりは一

③そういう弱点は弱点としてしっかりとした骨組みは維持するようにつとめなければなりません。

(2)「破滅の運命にある社会」とは

①市民がみんなおのれおのれの野心とか放蕩のためにのみ生活している社会

②暴力や不正を黙って見のがしている社会

③人間同士がお互いに信頼感をもっていない社会

④全員が意欲を失っているような社会

(3)①ローマが英雄たちのローマであったかぎり、ローマは繁栄していました。

②ローマがみずから築き上げた価値を尊重しなくなったとき、ローマは滅んだのです。

③新しい技術は、行動の態様をかえます。しかし、新しい技術は行動の価値も、行動する理由も変えることはありません。

当初においてもそうでありました。終局にまでそうであることでしょう。

<コメント>

20世紀を代表するフランスの大文豪で思想家、エッセイスト、アンドレ・モーロワが80歳の時に執筆した20歳の青年との人生論「青年と人生を語ろう」。名著「初めに行動があった」岩波新書や単独執筆の「英国史」「アメリカ史」「フランス史」(新潮文庫)「ドイツ史」なども是非お読みください。

2026年6月29日(月)